

平成 29 年における宇都宮市の交通事故発生状況について

[事故統計関係資料提供 栃木県警察本部]

本市の交通事故発生状況については、第 10 次宇都宮市交通安全計画の重点視点到位置付けた「高齢者」「自転車利用者」「子どもや高校生」に関するデータを中心に掲載する。

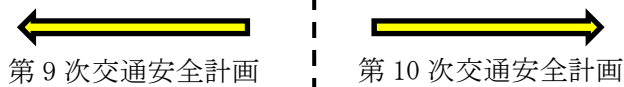
1 宇都宮市の交通事故発生件数，死者数，負傷者数の推移

本市の交通事故発生件数，死者数，負傷者数は減少傾向にあり，特に平成 29 年は，発生件数 1,548 件，死者数 8 人，負傷者数 1,857 人のいずれも昭和 45 年以降の最小値となり，第 10 次宇都宮市交通安全計画の目標値を達成している。

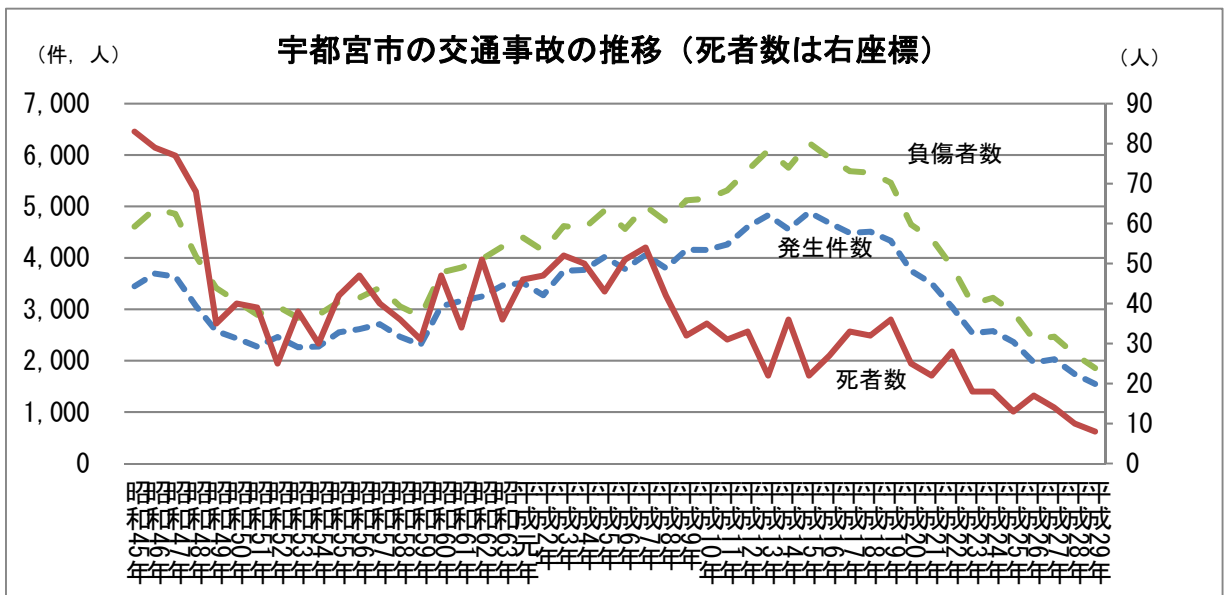
① 過去 5 年間の推移と第 10 次宇都宮市交通安全計画（H28～H32）の目標値

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	目標値
死者数	13 人 (▲5 人)	17 人 (4 人)	14 人 (▲3 人)	10 人 (▲4 人)	8 人 (▲2 人)	10 人 以下
負傷者数	2,938 人 (▲287 人)	2,416 人 (▲522 人)	2,467 人 (51 人)	2,125 人 (▲342 人)	1,857 人 (▲268 人)	1,900 人 以下
発生件数	2,363 件 (▲213 件)	1,966 件 (▲397 件)	2,028 件 (62 件)	1,738 件 (▲290 件)	1,548 件 (▲190 件)	1,600 件 以下

注) 下段( )は対前年増減数



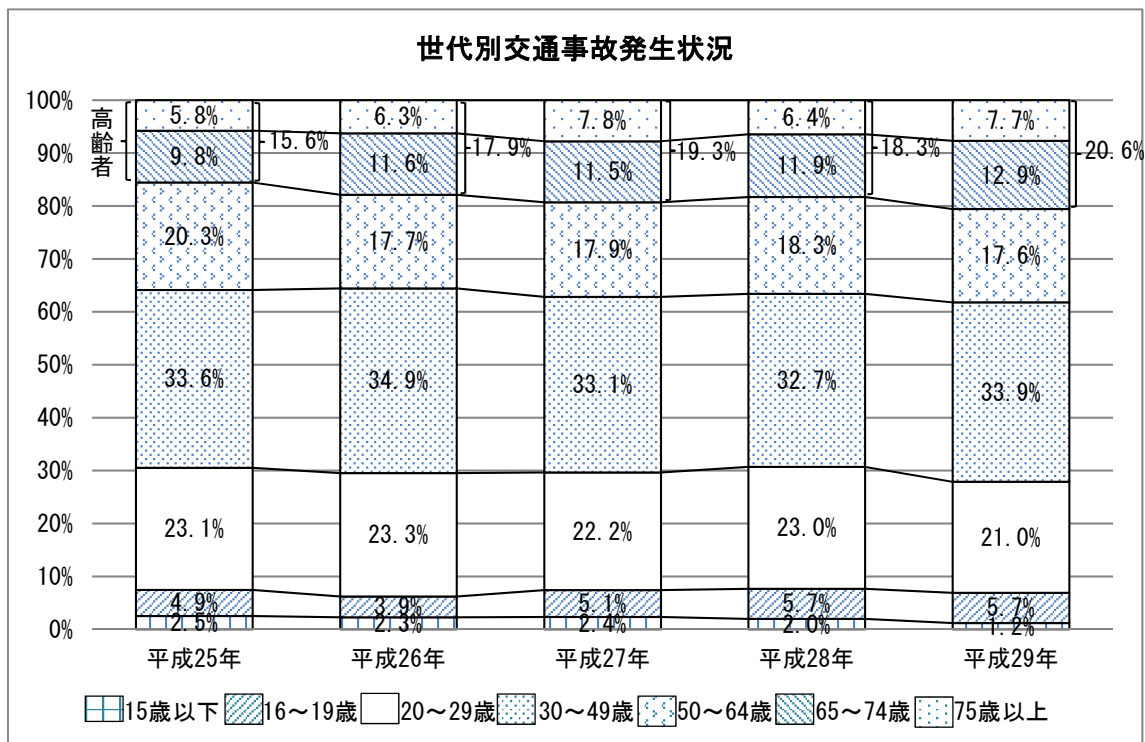
② 宇都宮市の交通事故の推移



- ア 死者数 8 人（過去最小値），過去最多 83 人（S45）の約 10 分の 1
- イ 負傷者数 1,857 人（過去最小値），過去最多 6,236 人（H15）の約 3 分の 1
- ウ 発生件数 1,548 件（過去最小値），過去最多 4,887 件（H15）の約 3 分の 1

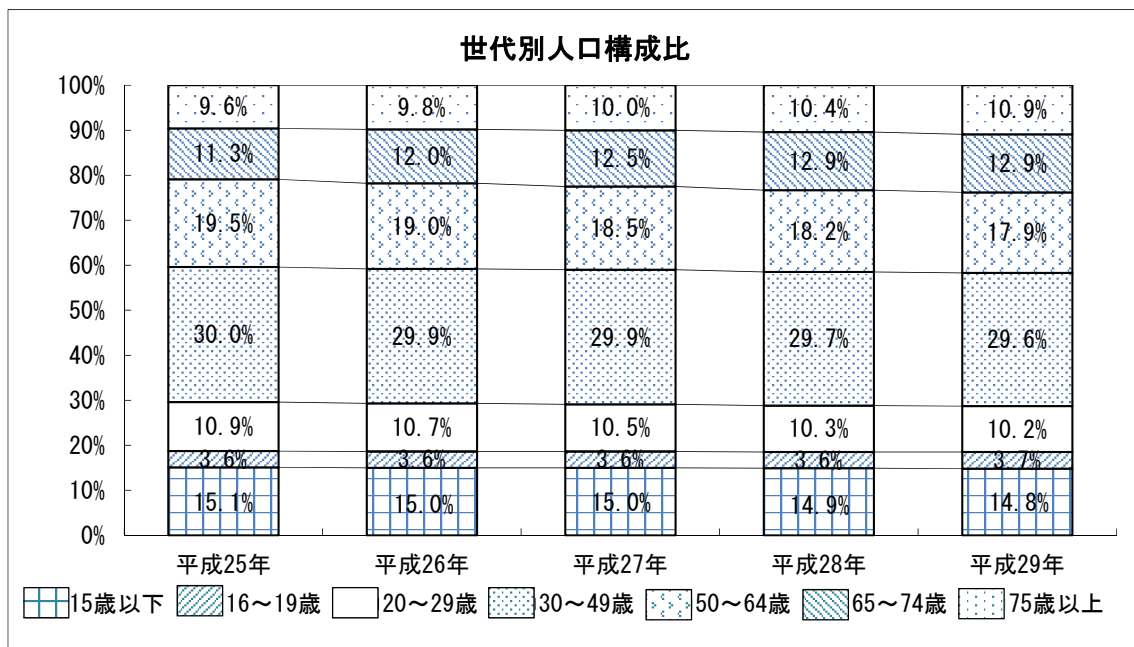
## 2 世代別交通事故発生状況

第1当事者の世代別の割合では、高齢者（65歳以上）の占める割合が増加傾向となっている。



※ 第1当事者・・・交通事故に関係したした者のうち、過失が最も重い者をいい、過失同等の場合は被害がより軽い者をいう。

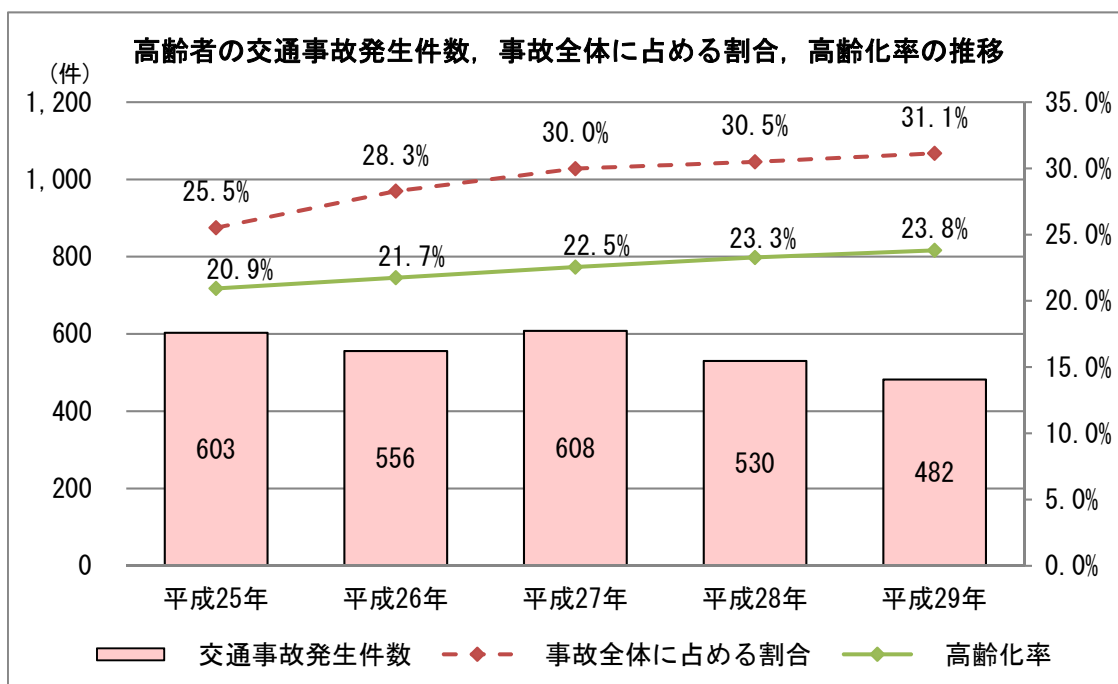
(参考)



### 3 高齢者の交通事故発生状況

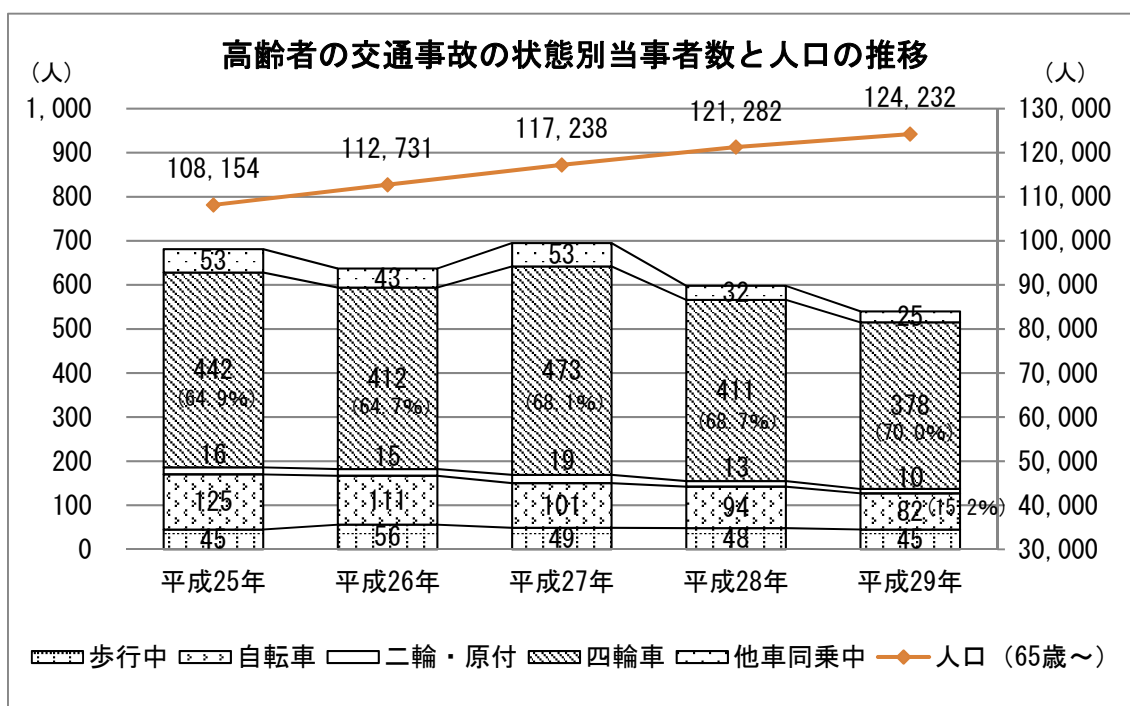
#### ① 高齢者の交通事故発生件数の推移

交通事故発生件数は、平成 27 年に一時増加したものの、総じて減少傾向にあるが、高齢化率の上昇とともに、事故全体に占める高齢者の割合は増加傾向となっている。



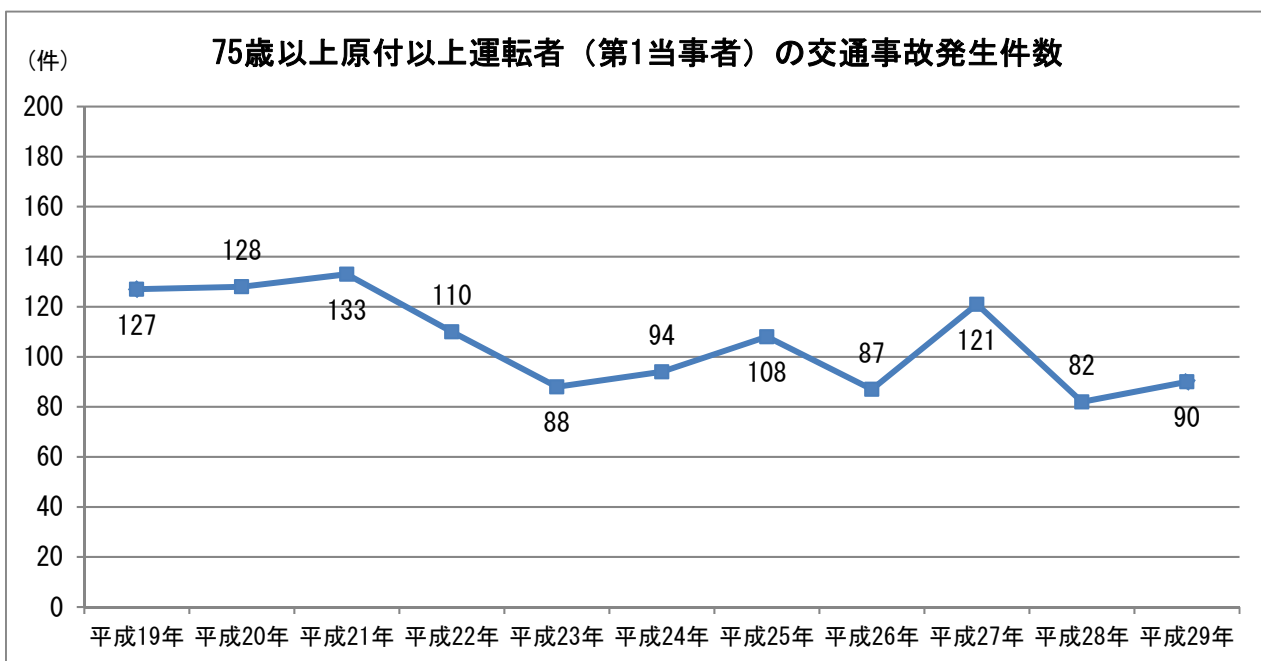
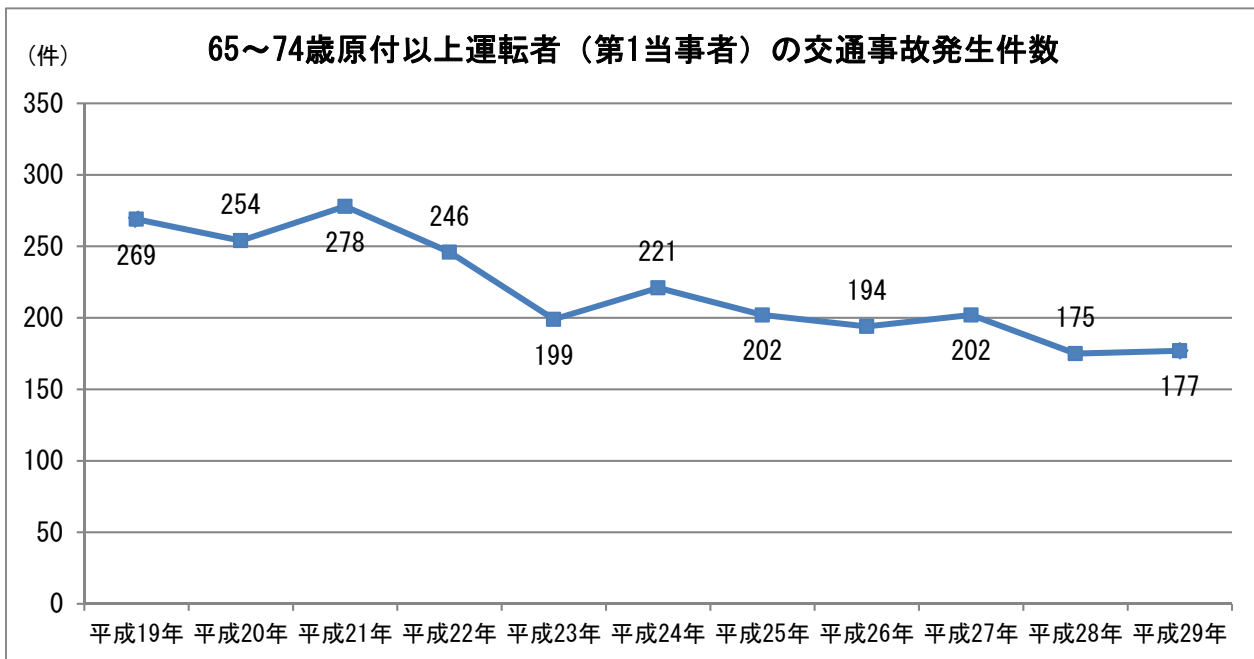
#### ② 高齢者の交通事故の状態別当事者数と人口の推移

人口は増加しているが、当事者数は平成 27 年に一時増加したものの、総じて減少傾向にある。状態別では、四輪乗車中が 70.0%、自転車乗車中が 15.2%を占めているが、当事者数はともに減少傾向にある。四輪乗車中の割合は増加傾向にある。



③ 高齢運転者（第一当事者）による交通事故発生件数

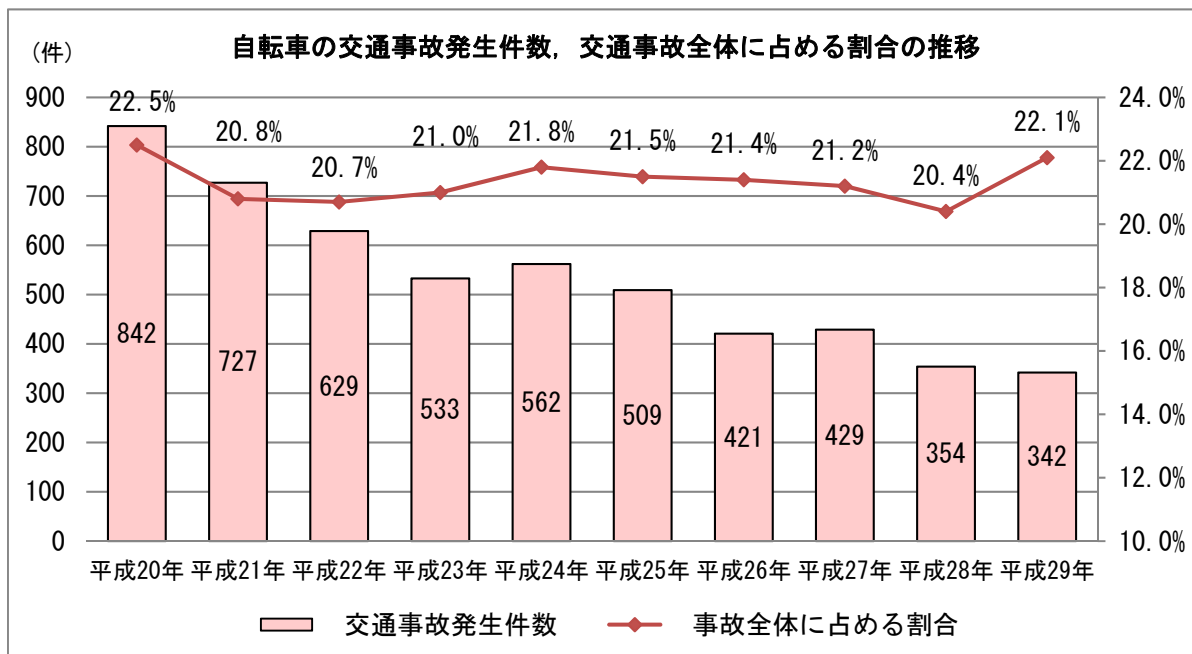
65歳から74歳までの原付以上運転者（第1当事者）、75歳以上の原付以上運転者（第1当事者）ともに、交通事故は減少傾向にある。



#### 4 自転車の交通事故発生状況

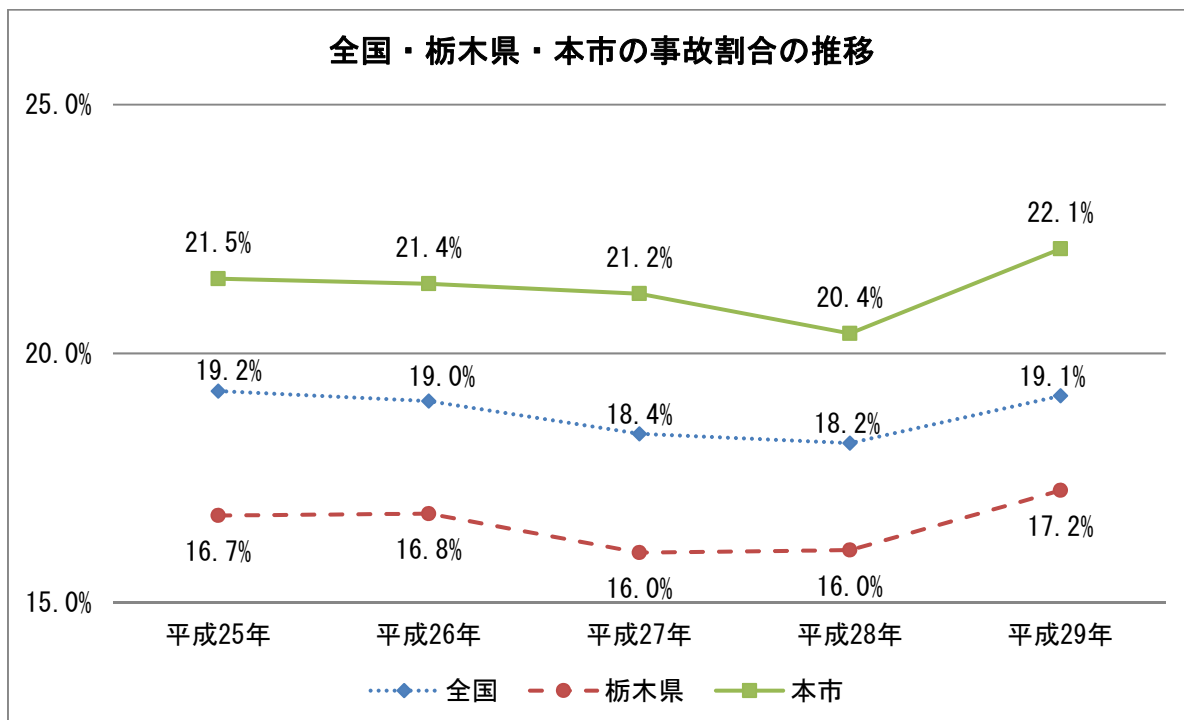
##### ① 自転車の交通事故発生件数の推移

自転車の交通事故発生件数は、減少傾向にあり、平成29年は、平成元年以降では最小値となっている。また、事故全体に占める割合は、過去10年間で20～23%の間を推移しており、平成29年は交通事故全体の減少も影響し、やや増加した。



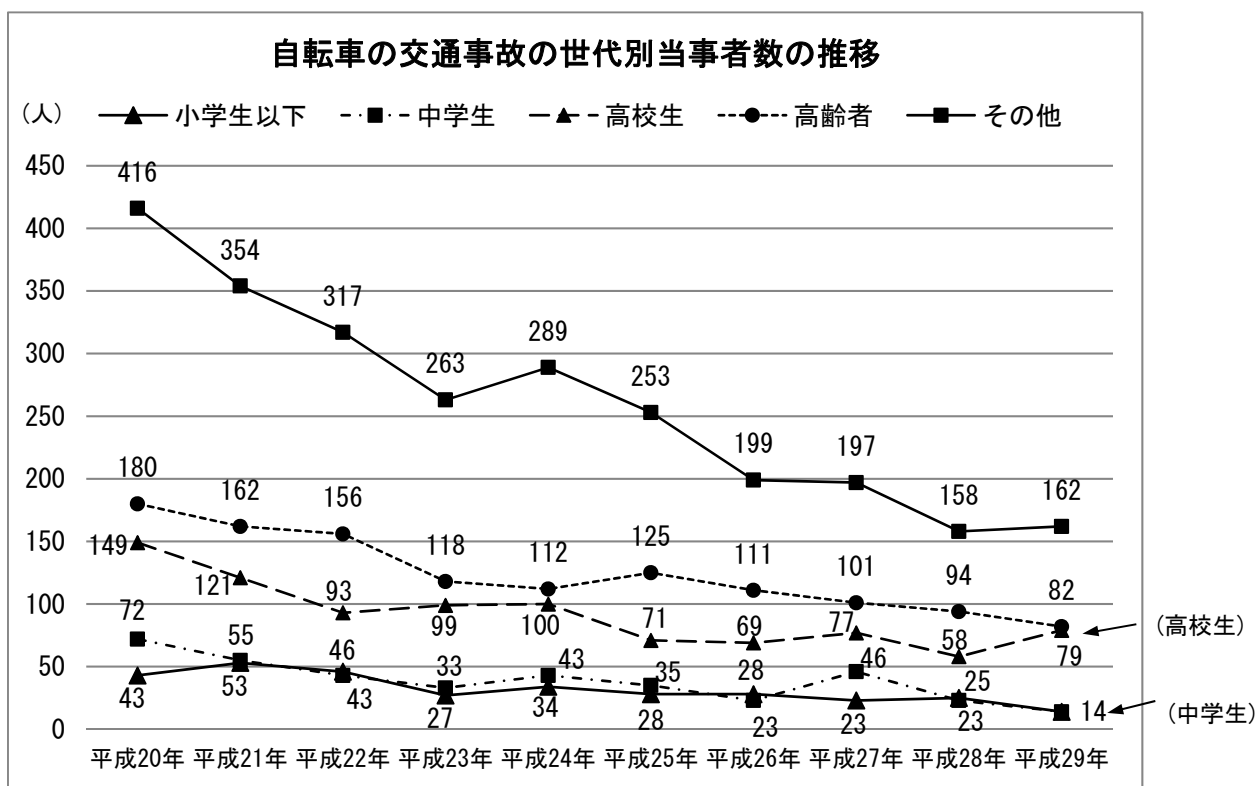
##### ② 自転車の交通事故の事故全体に占める割合の推移（国・県との比較）

交通事故全体に占める割合は、国・県の割合に比べてやや高い。また、国・県・市ともに、平成29年の割合はやや増加した。



### ③ 自転車の交通事故の世代別当事者数の推移

自転車の交通事故当事者は、10年前と比較し全ての年代で減少傾向にある。特に、中学生（80.6%減）、小学生（67.4%減）の順で減少率が高い。また、高校生の当事者数が前年と比較して増加した。

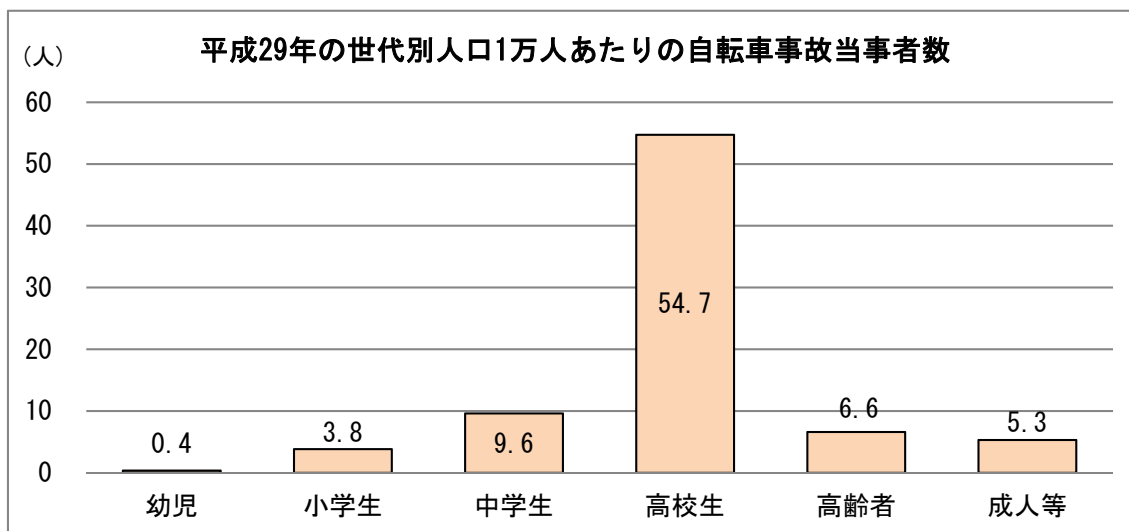


※ H20 から H29 の世代別当事者数の減少率

小学生 67.4% 中学生 80.6% 高校生 47.0% 高齢者 54.4% その他 61.1%

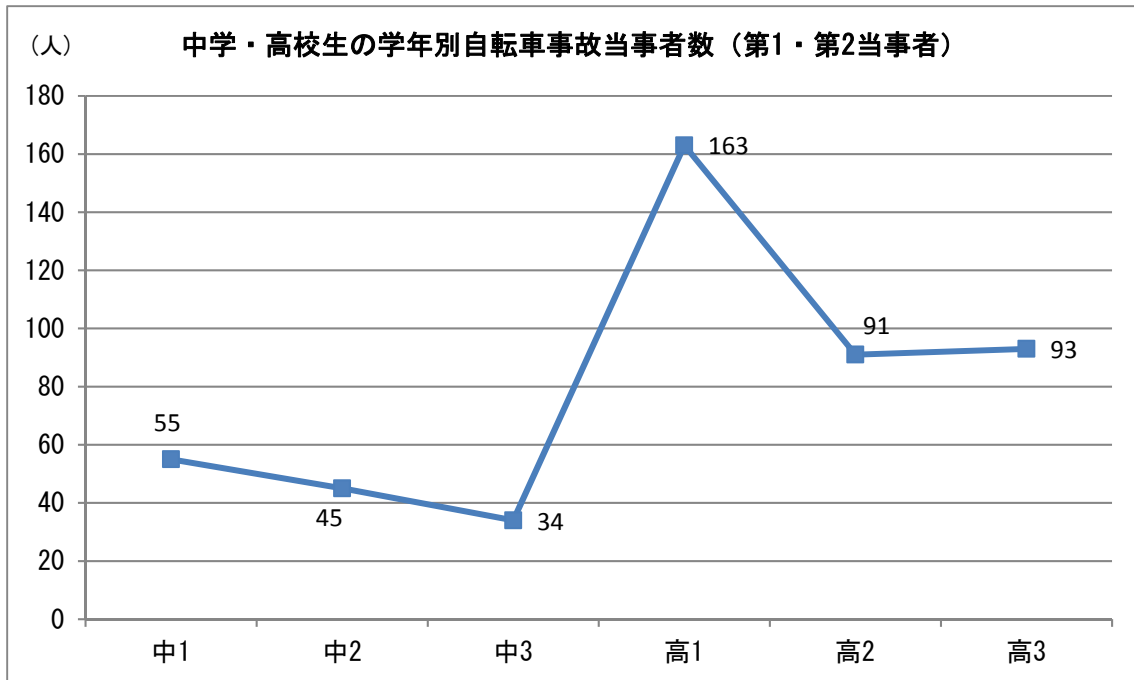
### ④ 平成29年の世代別人口1万人あたりの自転車事故当事者数

自転車の交通事故当事者は、全ての世代で10年前と比較し大きく減少しているものの、世代別人口1万人あたりの自転車事故当事者数を比較すると、計画策定時と変わらず、依然、高校生が突出して多く、次いで中学生となっている。



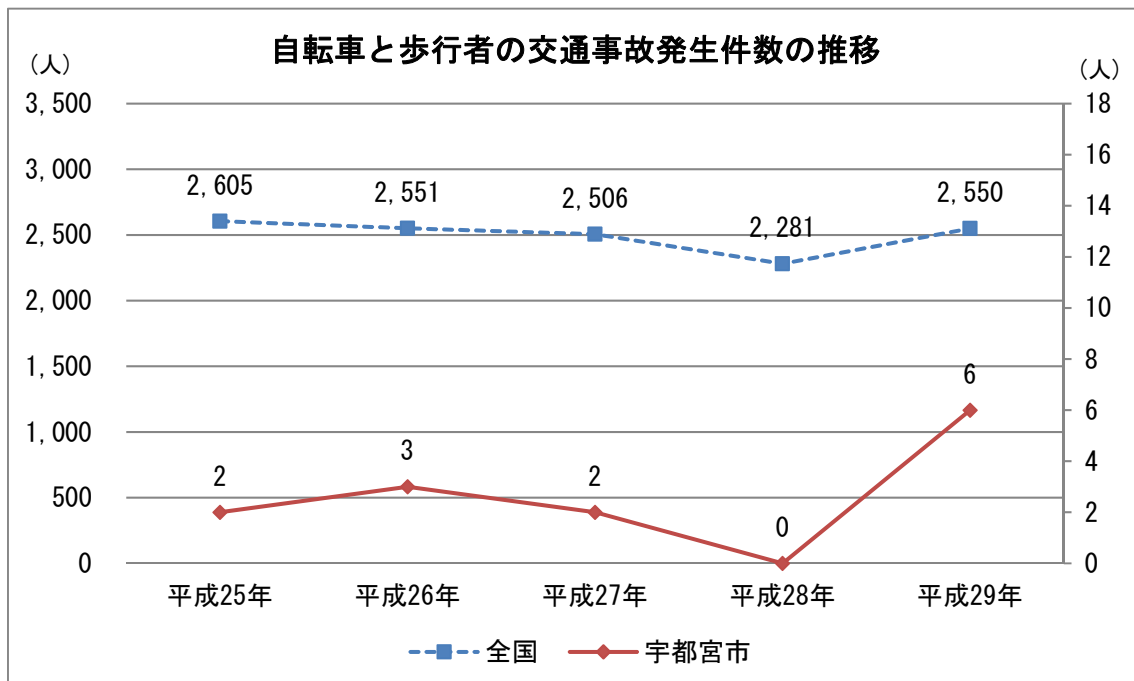
⑤ 中学・高校生の学年別自転車事故当事者数（平成25年～平成29年の合計）

中学では中学1年生，高校では高校1年生の当事者数が多く，特に高校1年生は全体の約3割を占めている。



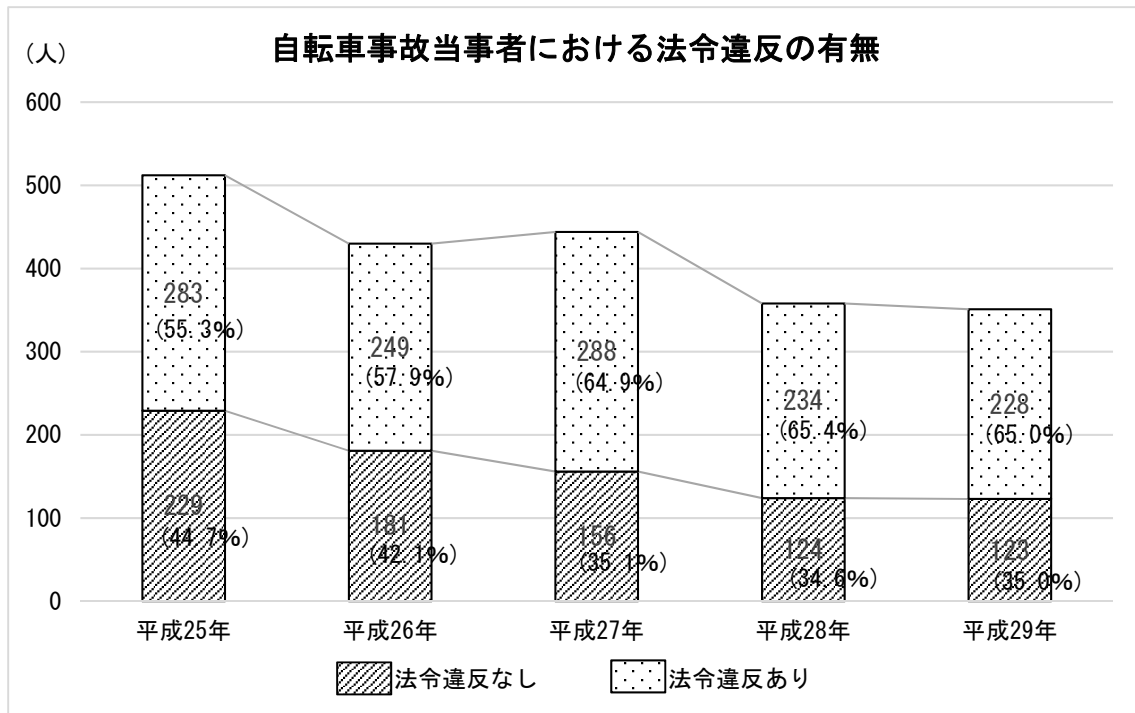
⑥ 自転車と歩行者の交通事故発生件数の推移

自転車と歩行者の交通事故発生件数は減少傾向にあったが，国・市ともに，平成29年の発生件数は増加した。



⑦ 自転車事故当事者における法令違反の有無

自転車事故当事者は減少傾向にあるが、そのうち法令違反があった者の割合は増加傾向にある。



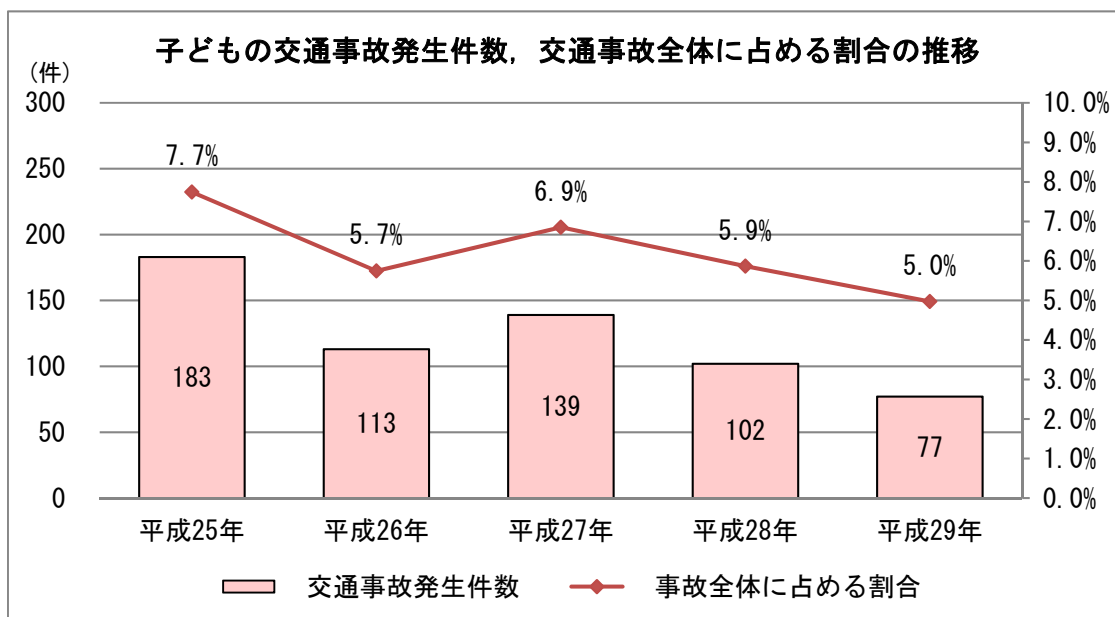
※ 主な法令違反ありの内訳は、「交差点の安全通行」、「ハンドル操作等不適」、「安全不確認」など。



## 5 子どもの交通事故発生状況

### ① 子どもの交通事故発生件数の推移

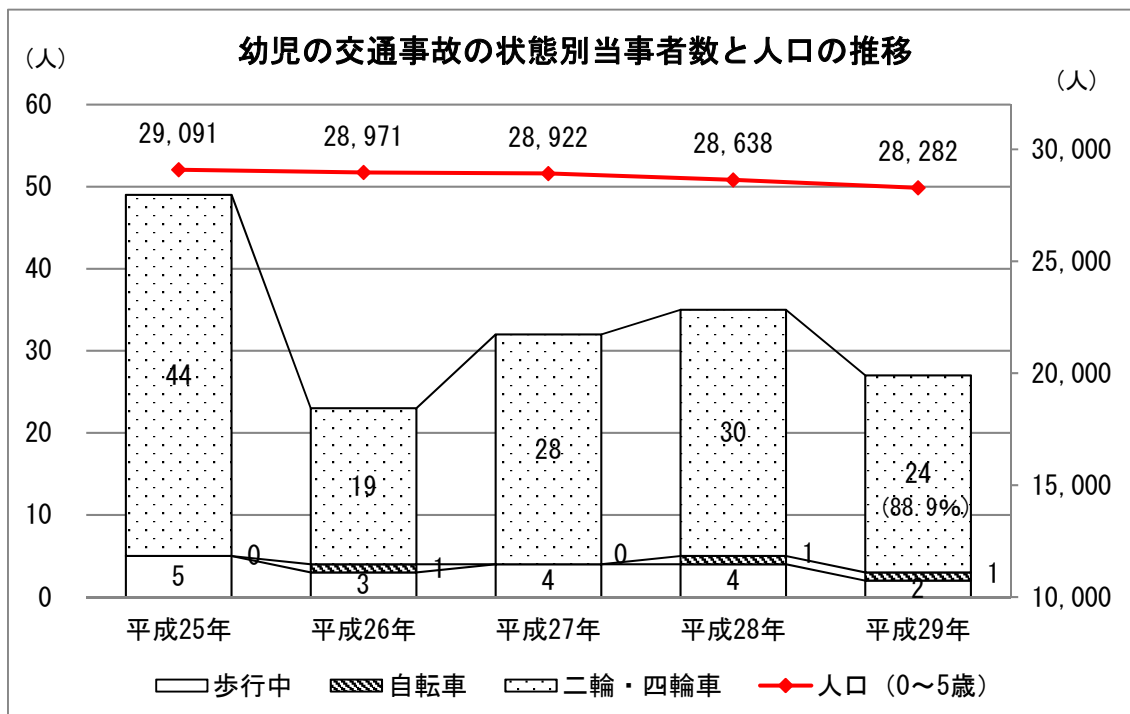
子どもの交通事故発生件数は、増減しながらも、総じて減少傾向にある。



※ 子ども・・・中学生以下の者をいう。

### ② 幼児の交通事故の状態別当事者数と人口の推移

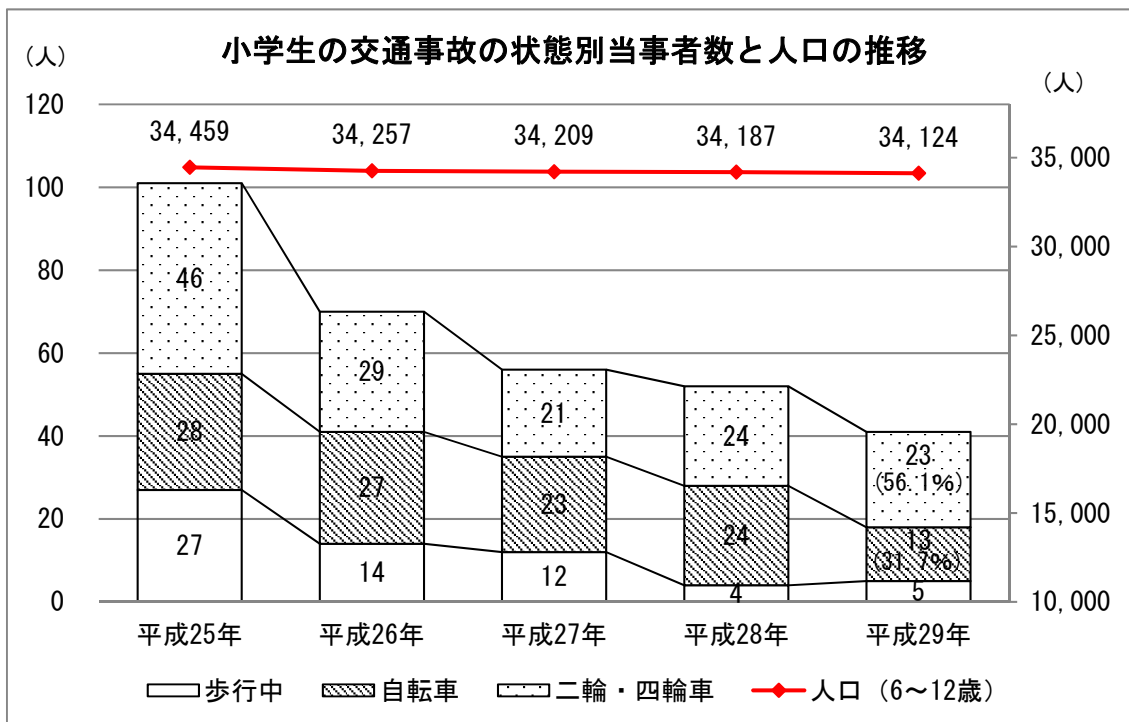
人口は緩やかに減少しており、当事者数は平成27年以降増加傾向にあったが、平成29年は減少した。状態別では二輪・四輪車乗車中の割合が88.9%を占めている。



※ 幼児・・・0歳～5歳までの者をいう。

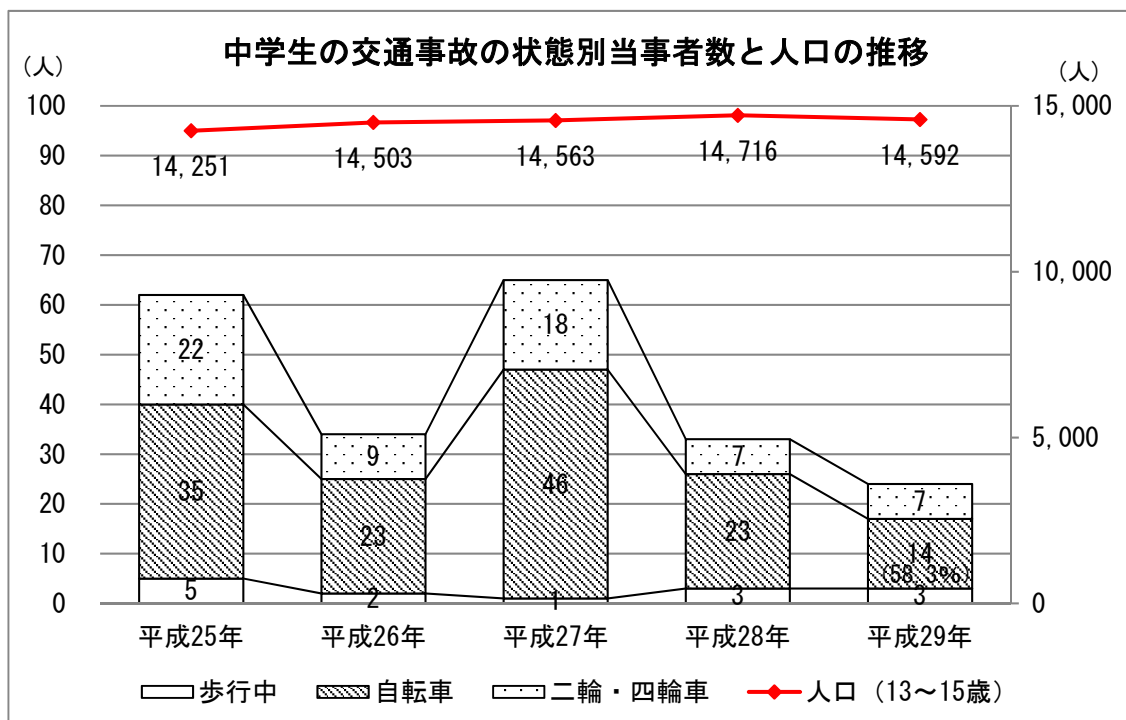
### ③ 小学生の交通事故の状態別当事者数と人口の推移

人口は横ばい状態であるが、当事者数は減少傾向にある。状態別では二輪・四輪車乗車中の割合が56.1%，自転車の割合が31.7%を占めており、自転車の事故当事者数は平成28年と比較し、約5割減少した。



### ④ 中学生の交通事故の状態別当事者数と人口の推移

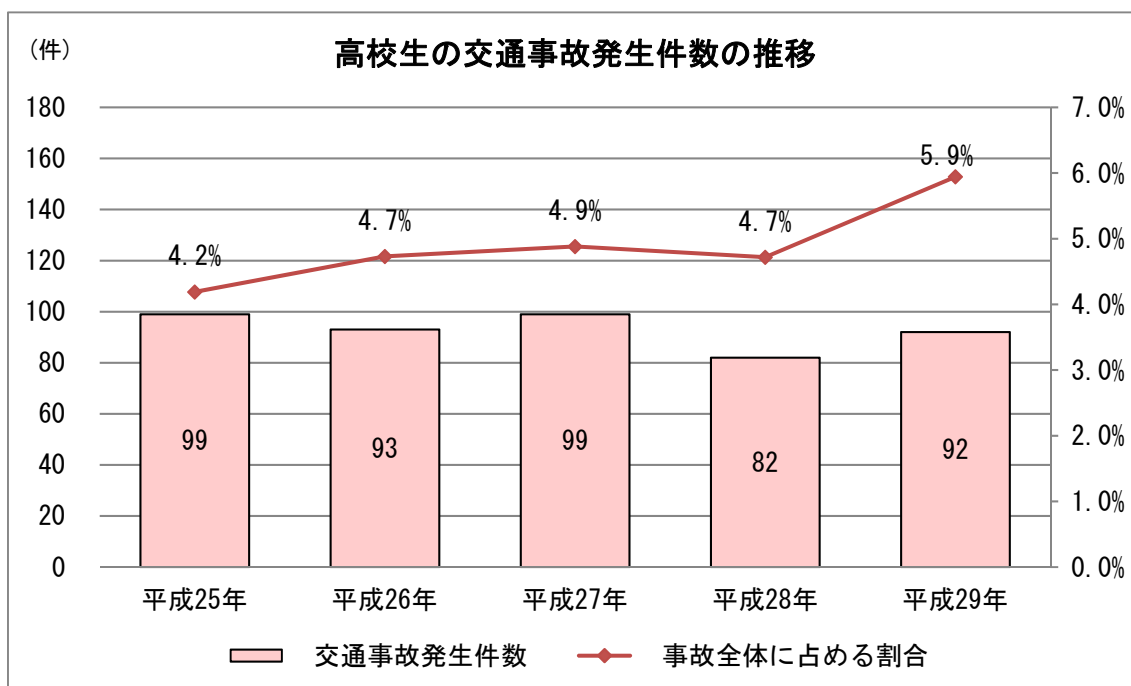
人口は増加傾向にあるが、当事者数は平成28年以降減少傾向にある。状態別では自転車の割合が58.3%を占めているが、平成28年と比較し、当事者数は約4割減少している。



## 6 高校生の交通事故発生状況

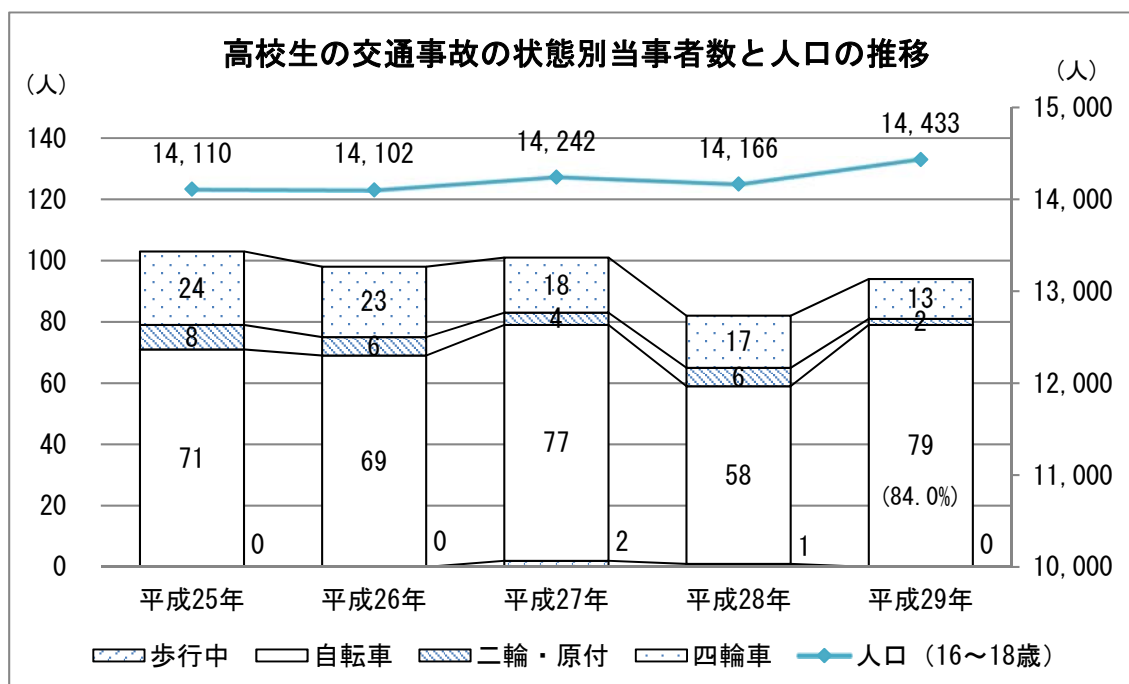
### ① 高校生の交通事故発生件数の推移

高校生の交通事故発生件数は、横ばい状態である。平成29年の事故全体に占める割合は、前年と比較し増加した。



### ② 高校生の交通事故の状態別当事者数と人口の推移

人口は緩やかに増加しており、当事者数は平成28年に減少したものの、平成29年に再び増加した。状態別では、自転車乗車中が84.0%を占め、平成28年と比較し当事者数は36%増加した。



(参考) 宇都宮市の運転免許申請取消(自主返納)状況

高齢者の交通事故発生件数が減少傾向にある中、宇都宮市在住者の運転免許自主返納件数も年々増加している。平成29年は前年と比べ返納件数が、約29%増加した。

